

ステークホルダーに応じたIR情報提供システムの開発

劉 沙紀（九州大学インスティテューショナル・リサーチ室）

1. 背景と目的

九州大学では旧大学評価情報室を発展的に改組し2016年4月にインスティテューショナル・リサーチ（IR）室が設置され、本格的な活動を開始した。当室では、教員と事務職員が教職協働で業務を行っている。当室の業務として、大学執行部の大学運営全般に係る意思決定に資するためのデータを提供することが第一に掲げられている。

先行研究においても、IRの主な役割として大学内のデータを収集・分析・提供することが挙げられている[1]。また、収集したデータを公開することもIRの重要な意義の一つであると言われている[2]。さらに、IRを活用した情報発信が大学のレピュテーション向上に寄与する可能性も示唆されている[3]。

これらを踏まえ当室では、執行部さらには多様なステークホルダー（利害関係者）へ向けて、各々に応じた情報を提供・公開するシステムの構築を目指している。本稿では、このようなIR情報提供システムの第一歩として、当室が収集した情報を、大学構成員や学外者等の属性に応じて提供するためのシステムを開発したのでその概要を紹介する。

2. IR情報提供システム

2.1. 情報の選定

本システムにおける情報提供対象者として、当面は大学執行部（総長・理事等）とし、順次、教職員、学生・学外者を対象とした。当室が収集した情報を提供する目的は、各対象者で異なる。情報提供の目的を整理し、目的に応じて情報の内容を選定した。表1に各対象者別の情報提供目的と内容を示す。執行部には、大学の意思決定を支援するための情報を提供することを目的とする。このため、数値目標やその達成状況、学内諸課題等といった機微なものから、各部署が保有する情報、大学の基本的な情報まで幅広く提供することとした。教職員には、大学運営業務に必要な情報を提供することを目的として、各部署

表1 各対象者における情報提供目的と内容

対象者	目的	内容	その他
執行部	大学の意思決定の支援	・数値目標の達成状況、学内諸課題など機微な情報	・BIツールとの連携も想定
		・各部署から収集した学内情報	
		・学生数や教職員数など大学の基本的な情報	
教職員	大学運営業務の支援	・各部署から収集した学内情報	
		・学生数や教職員数など大学の基本的な情報	
学生・学外者	学生生活の支援 アカウントビリティ	・教員の研究活動に関する情報 ・学生数や教職員数など大学の基本的な情報	

が保有する情報や大学の基本的な情報を提供することとした。学生・学外者には、学生生活の支援やアカウントビリティを果たすことを目的として、教員の研究活動に関する情報や大学の基本的な情報を提供することとした。

2.2. システムの設計

IR 情報提供システムの要件として以下の 4 点を設定した。

- 要件 1 様々な場所で参照できる
- 要件 2 操作が容易である
- 要件 3 検索機能を有する
- 要件 4 情報の機密性、完全性、可用性が確保される

要件 1 に対しては、Web を用いたシステムであることで要件を満たすことが可能であると考えた。これにより、Web 環境と情報機器があれば、会議や出張先でも参照することができる。

要件 2 と要件 3 に対しては、HTML 形式などで Web サイトを設計することで要件を満たすことができると考えた。これにより操作性に配慮したインターフェースを自由に構築することができ、検索機能も実装することができる。

執行部向けや教職員向けに提供される情報には、学内諸課題等の機微情報、学内限定の情報が含まれており、機密性、完全性、可用性を確保する必要がある。この理由から要件 4 を設定した。要件 4 に対しては、情報をクラウドサーバーや共用サーバーではなく、IR 室が所有するサーバー（冗長化、電源対策済）に格納すること、また、Web サイト内に認証機能を設置することで、情報の機密性、完全性、可用性を満たすことが可能であると考えた。

2.3. システム概要

図 1 に IR 情報提供システムの概要を示す。IR 室が所有するサーバーに表 1 で示した情報を格納し、それらを各対象者が取得できるようそれぞれのページを構築することで情報提供を行う。

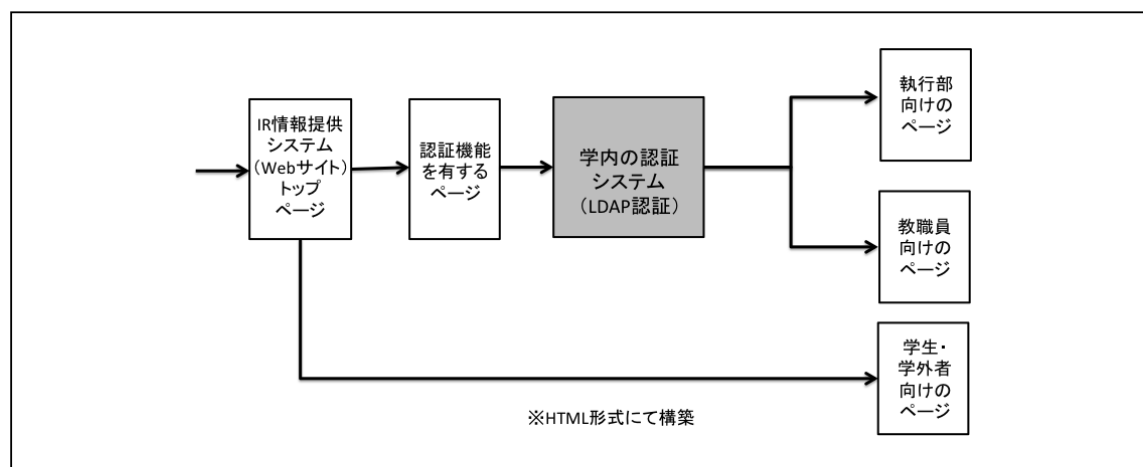


図 1 IR 情報提供システム概要

執行部、教職員向けのページを閲覧するには、学内の認証システム（LDAPによる認証）によって認証される必要がある。この認証システムでは、本学構成員一人ひとりに割り当てられている固有のIDとパスワードによって認証が行われる。認証されるとIDによって執行部と教職員が判別され、それぞれのページが表示される。学生・学外者向けのページは、認証無しに閲覧することができる。

2.4. システムの運用

現在、本システムは執行部及び教職員のみを対象に運用している。始めに執行部のみに運用が開始され、教職員向けに提供する情報の内容の可否を執行部に確認するなどの手続きを経て、数ヶ月後に教職員への運用が開始された。学生・学外者向けの運用も、数ヶ月後に予定されている。

なお、情報は定期的に最新のものに更新する必要がある。現在は各情報の更新時期に応じて、毎年度数回程度の更新を予定している。

3. 課題と今後の展望

現在は、学生と学外者に同一の情報を提供しているが、各ステークホルダーの関心やニーズを分析し、それぞれに適する情報を提供する必要があると考えている。学外者向けには大学のレピュテーション向上を目的として、大学の特色や顕著な研究活動といった情報を精選し提供することを目指している。

また、検討すべき課題として、利用率を如何に向上させるかということが挙げられる。利用状況は、Googleアナリティクス等を用いて随時確認することができる。利用状況を活用するなどして、利用率の向上に向けた周知活動を行う必要があると考えている。

4. まとめ

九州大学IR室で開発しているIR情報提供システムの一部を紹介した。Single Sign-Onシステムによる認証機能を備えたWebページによって、大学執行部、教職員、学生・学外者といった各ステークホルダーに応じた情報を提供することを実現している。今後は、執行部向けにBIツールと連携する等、さらに内容を細分化して設定し、各対象者に応じた適切な情報を公開することを目指す。

【参考文献】

- [1] IRによる大学の意思決定支援のための取組の改善に関する実践的研究，高田英一，学位論文，九州大学，2015.
- [2] 平成24-25年度文部科学省大学改革推進委託事業 大学におけるIR（インスティテューショナル・リサーチ）の現状と在り方に関する調査研究報告書，小林雅之編，2014.
- [3] 研究大学におけるレピュテーション・マネジメントのあり方について— IRの観点を中心に—，高田英一，大石哲也，広報研究第20号，2016.

平成 29 年 8 月 19・20 日
(国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 東京事務所)